

加倉井周一 編
義肢装具事典

(A 5 判 424 頁 9,000 円 (税込) 1991 年 創造出版 刊)

明石 謙

(川崎医科大学リハビリテーション科)

この度「義肢装具事典」が加倉井氏の編集により出版された。良い事典が出版されたことを喜びたい。「事典」と「辞典」の違いを広辞苑で調べると、前者は「事柄を表す言葉を集めてその一つ一つに解説を加えたもの」、後者は「言葉を集め、一定の順序に並べ、その読み方、意義、語源、用例などを解説した書」となっている。したがって、この本は義肢装具に関する言葉の解説がなされている。

義肢装具に関する用語は、日本義肢装具学会が回を重ねて行く段階で、次第に共通したものが用い

られるようになってきた。これには編者が序文で述べているように JIS 用語の決定が大きく影響しているように思える。しかし、義肢装具学会以外の補装具関係の研究會では、未だに用語は各々が自分勝手に適当にやっているようで、この事典のこれからの果たす役割が大きいことが分かる。

編者や執筆者についてみれば、前述の JIS 用語決定に主な役割を果たした人たちがほとんどであり、これ以上のメンバーは得られないのではないかと。

内容は用語編と資料編とに分か

れ、用語編はアイウエオ順に配置された義肢装具に関係のある用語が、図を多く用いて分かりやすく解説されている。ここは「辞典」としての機能を持つ部分で便利が良い。コメディカルの学生は特に重宝するように思える。

資料編は義肢装具の基礎知識の項と関連 JIS 規格の一覧の部分に分かれており、「基礎知識」は歴史、四肢切断断端の管理、合併症、適合検査、装具の分類と処方例、と医師にとっては知識の不足を補ったり、参考にすることもでき有用である。JIN 規格の部分はコンパクトに印刷されており、普段は関心のない部分品のテスト法も興味深く、また必要事項を捜しているときに大冊の JIS 規格を繰る必要がない点だけでも便利が良い。義肢装具に関わりを持つ人や興味を持つ方々には必携の書であろう。